

発表題目 : 『裸婦彫刻の近代性について』

副題 : ーヴェナンツォ・クロチェッティの試みー

崇城大学芸術学部芸術学専攻博士課程

野添浩一

目的 : 鹿児島市立美術館所蔵の一彫刻作品を通して、古代以来彫刻家が追いつづけてきたテーマ女性裸体像、その「近代性」について、以下にしたがって考察する。

- 1 作品の紹介。作者によって《水浴のあと体を拭く女》と名付けられた本作品の素材、大きさ、主題、ポーズについて、客観的に記述する。
- 2 作者の紹介。作者ヴェナンツォ・クロチェッティ（1913～2003）について、その経歴と主たる作品を紹介する。
- 3 古典的作品との比較。比較の対象として、紀元前2世紀のギリシアの原作であり、両腕を欠くもその他ではほぼ完全な姿をとどめ、各部の寸法が知られている《ミロのヴィーナス》を取り上げ、ポーズおよび各部の比例関係を比較する。
- 4 古典との調和。いくつかの身体部比例関係を比較し、本作品においては古典との調和が意図されていたことを確認する。
- 5 古典からの乖離^{かいり}。ポーズおよび細部のいくつかの比例関係を比較して、本作品において意図された古典からの乖離を確認する。
- 6 本作品の「近代性」。上でみた古典との乖離を分析し、ポーズやいくつかの細部（たとえば臀部、乳房など）における均衡の破壊と歪曲を破壊し、そこに本作品の特質である「危うさ」、「瑞々しい官能性」の表現を見る。
- 7 結論。以上の推論から本作品が一方では古典との調和を図りながらも、他方では、アンバランスと細部の強調と歪曲をもって「危うさ」、「瑞々しい官能性」を表現しており、このことから、結論として、古代以来彫刻家が追いつづけてきたテーマ女性裸体像が「近代性」をも盛り得る器であることを確認する。



以上